

平成26年度幸区地域課題対応事業 事業評価

	事業名	所管課	目的及び内容	決算額	実施結果	事業の評価	達成度
1 安全・安心まちづくり事業費							
(1)	地域防災活動の推進事業	危機管理担当	災害の被害を低減するために、自分の命は自分で守る、自分たちの地域は自分たちで守る、という「自助・共助」の意識が大切であり、日頃から防災に対する備えや知識を習得しておくことが必要である。区民の防災意識の高揚を図ることを目的として、「幸区防災フェア」を開催し、防災知識の習得、防災資器材・備蓄品等の周知を図るとともに、自主防災組織向けに講演会を開催し自主防災組織の活性化を図る。	534,600	平成27年3月19日に「幸区防災フェア」を開催した。 ①警察、消防、赤十字奉仕団の防災関係団体の協力による、各団体の活動パネル展示、企業等による防災用品の展示、簡易ランプの作成体験 ②東日本大震災時に仙台市内の避難所運営に携わった町内会長による「自主防災組織活性化講座」	展示品を一般参加者向けにした結果、多くの参加者の興味を引くことができた。また、家庭内備蓄の例を展示したことにより、多くの参加者に周知することができた。 今回は、一般参加者、自主防災組織向けに実施したことで、知識・技術両面の取得を可能としたことから、十分な成果があったと考える。	3
(2)	安全・安心まちづくり普及啓発事業	危機管理担当	区民が安全かつ安心して暮らせるまちづくりを進めるため「自分たちのまちは、自分たちで守る」という心がけを住民1人ひとりが持つことができるよう、各種普及啓発事業を通じて防犯意識の徹底・高揚を呼び掛ける。 市民や地域団体、警察等と連携して、街頭キャンペーン及び防犯パトロールを実施する。	416,232	例年行っている業務に加え、ひたくり多発に伴い、幸警察署等と連携し、区内パトロール等各種対策を行った。 ①安全・安心街頭キャンペーン(2回) ②ひたくり多発への対応(2回) ③防犯パトロール(区内3地区) ④その他(消防フェアにおける啓発物の配布2回)	年度を通して、継続した啓発物の配布や呼びかけ等による周知・啓発活動を実施して、多くの区民に対して防犯意識の徹底・高揚を図ることができた。 特に年末街頭キャンペーンの実施にあたっては、啓発物を配るだけでなく、住宅を訪問し振り込み詐欺防止を訴えるなど、例年と違った内容で実施することができた。	3
(3)	交通安全の普及啓発事業	危機管理担当	幸区内の交通事故発生件数は減少傾向にあるものの、自転車に関する交通事故の発生割合が30%を超えており、県内平均を上回る高い割合となっている。近年幸区が県内における自転車事故多発地域に指定されており、区民一人一人の交通安全意識の高揚を図るため実施する。 区内の幼稚園・保育園児及び小学校1年生並びに3年生を対象として保護者と共に交通安全教室を開催し、啓発物を配布する。また、各季の交通安全運動期間中に地域の交通安全関係団体と連携しながら、交通安全キャンペーン等の啓発活動を実施し、啓発物の配布を行うとともに、各町内会・自治会と協力して交通安全の啓発活動を実施する。	1,813,428	① 年度を通じて、特に「自転車マナー向上」に主眼を置き、各季の交通安全期間における各キャンペーン、スクエアドストレート方式の交通安全教室、中学校交通安全教室及び川崎フロントアレーとの協働による交通安全普及啓発活動を実施した。 ②その他、区内の幼稚園・保育園及び小学校での交通安全教室、平成25年度から開始した幸区役所職員向け「自転車マナー講習会」や、定期的に複数回行う幸町交差点における「自転車マナーアップキャンペーン」についても継続実施した。	例年通りの活動に加え、本年度は4事業を新たに展開した。また、県内の交通事故による死者数が全国ワースト2位となったことを契機に、各季の運動に加えた形で「交通死亡事故抑止の特別交通安全運動(全6日間)」を地域の諸団体と共に実施するなど、本年度は例年よりも広範囲かつ多人数を対象に啓発活動が実施できた。	3
(4)	さいわい動物愛護推進事業	衛生課	動物の愛護と適正な飼養管理について普及啓発を行い、区民の理解と関心を深めることで、飼養動物に関するトラブルを抑制し、人と動物の共生を図る。動物愛護、適正飼養に関する講習会等を開催する。窓口における子供向け動物愛護啓発小冊子、マナー向上のための糞取り袋、ペットの防災手帳の配布を継続するとともに、区民の相談に対応するため種々の啓発用プレートを作成・配布する。	281,208	①動物愛護啓発冊子「ワンコからのてがみ」を区内全小学1年生(1,327冊)及び衛生課窓口にて配布し、「ペットの防災手帳」についても衛生課窓口にて配布した。 ②地域的な問題となりやすい犬の糞尿処理や猫の適正な管理について、飼い主等への啓発用プレート(ラミネート加工等)を作成し、配布した。(30枚) ③夢見ヶ崎動物公園との共催で「親子動物愛護教室」(7月26日(土)開催、15組33名参加)、「動物愛護セミナー」(1月27日(火)開催、33名参加)を実施した。	動物愛護思想の普及及び動物飼養者のモラル向上は、短期間の活動では結果が出にくい。幼年期の子供を含めた普及啓発事業を継続実施していくことが重要である。 特に愛護教室、講習会、冊子等の内容について家族で話し合うことにより両親や兄弟にも普及啓発効果が見込めるため、動物愛護、動物適正飼養について考えるよい機会となったと思われる。	3
(5)	幸区災害対策推進事業	危機管理担当	発生が想定される大規模地震に備え、必要な防災資器材の配備を進めるとともに、自主防災組織や避難所運営会議の活性化支援として各種会議や防災訓練を効果的に実施することなどにより、地域防災力の強化を図る。 日吉地区の拠点である日吉合同庁舎に、可搬式太陽光パネルや発電機の独自電源を配備するとともに、区本部にバンクレス自転車等の資器材配備の充実を進め、災害対応拠点の機能強化を図る。 幸区における地域住民、企業、関係団体等と行政が大規模災害時における必要な対策の協議・検討を行うとともに、防災・減災に関する情報収集・共有を図るため、幸区災害対策協議会を設置・運営し、地域防災力の強化に向けた取組を推進する。	7,091,071	・春の防災訓練(区災害対策協議会、地域要員及び区本部と連携した防災訓練)[参加人数延べ:約400人] ・防災専門コンサルタントを活用した避難所開設・運営訓練[参加人数延べ:約210人] ・資器材配備の充実(可搬式太陽光パネル(2台)、発電機(3台)、投光器(15台)、バンクレス自転車(16台)等) ・幸区災害対策協議会をはじめ、医療救護部会、要援護者支援部会、帰宅困難者対策部会、地域防災連携部会における、分野別の諸課題への必要な対策の協議・検討 ・関係機関・団体が連携した各種研修や災害対応訓練の実施	自主防災組織や避難所運営会議の運営支援を行い、各種マニュアルの作成や防災訓練を通じて、地域住民の防災意識の高揚を図った。また、日吉合同庁舎や区本部に防災資器材を配備し、災害対応拠点の機能強化を進めた。 70余りの関係機関・団体が構成する幸区災害対策協議会の円滑かつ活発な運営を行い、顔の見える関係による連携協議や、研修・災害対応訓練を実施することにより、地域防災力の強化を図った。	3

平成26年度幸区地域課題対応事業 事業評価

	事業名	所管課	目的及び内容	決算額	実施結果	事業の評価	達成度
2 地域福祉・健康づくり事業費							
(1)	保健福祉情報発信事業	地域保健福祉課	保健福祉に関する情報を的確かつ効果的に発信することで、保健福祉に関する区民の関心と理解を深めるとともに、保健福祉センター各課が開催する事業・講座等の利用を促進する。 保健福祉に関する情報や保健福祉センターのサービス等の内容を記載した情報誌「幸区役所保健福祉センターだより」をA4サイズ(8ページ)、フルカラーで作成する。また、区内全世帯に年3回ポストイングするとともに、区内公共施設での配布、区のホームページへの掲載により情報発信する。	2,937,573	保健福祉に関する情報や保健福祉センターのサービス等の内容を記載した情報誌「幸区役所保健福祉センターだより」をA4サイズ(8ページ)、フルカラーにより、7月号は73,500部、10月号及び2月号は各75,550部作成し、全戸及び区内公共施設などで配布するとともに、区のホームページにも掲載した。	「幸区役所保健福祉センターだより」を作成し、全戸配布及びホームページに掲載することにより、保健福祉に関する具体的な制度やサービス、事業等について、多くの区民に必要な情報を的確かつ効果的に提供することができた。多数の事業・講座等の実施担当者から、『保健福祉センターだより』を見て参加申し込みをした」という区民が増えたとの報告を受けた。	3
(2)	健康長寿推進事業	地域保健福祉課	高齢者が地域の中でつながりを持ち、健康の維持増進を行うため、身近な地域で住民主体の健康づくり活動を展開する。健康づくりやそのための環境づくりについて、住民と共に考えていく。地区の特性に合わせて取り組むため、平成20年度から河原町社協区(7自治会)、日吉社協区(17自治会)で実施し、今後は、御幸地区を3地区に分けて3年かけて御幸地区全体に展開していくとともに、フォロー講座を行いサポートを行う。 ① 町内会を対象に、地区の健康づくりの活動状況やニーズを把握し、教室を企画する。 ② 町内会合同等で学習会を開催し、町会の実情に合わせながら、町内会単位でフォロー講座を実施する。 ③ 御幸地区全体の高齢者を対象とした、健康づくり普及イベントを実施する。 ④ 今年度対象の地区の活動状況の紹介及び地域の健康づくり情報について掲載した、広報用チラシを作成し、御幸地区町内会へ回覧する。	719,917	① 御幸西2地区(古市場・東古市場・古市場1丁目・古市場2丁目)の町会長や役員の理事会等で事業の説明を実施した。 ② 御幸西2地区合同で東芝小向体育館にて、10回コースの健康長寿推進学習会を実施した。毎回約40名～50名の参加があり、延べ422名参加があった。 ③ 御幸地区全体の高齢者を対象に御幸地区健康フェスタを実施し、37名の参加があった。 ④ 4町内会が町内会単位で普及講座を実施し、各町内会、おおむね20人～30人の参加があり、町内会として自主的に活動始めている。	古市場・東古市場・古市場1丁目・古市場2丁目の町会長や役員等の協力のもと、計画どおり実施できた。各町内会の普及講座をきっかけに健康づくり活動を立ち上げて継続する町内会もあり、既存の活動がある町内会では、改めてその重要性を再認識し、地区組織の環境づくりの基盤強化につながった。アンケートでは、全ての町内会で満足度の高いものだった。町内会として既存の健康づくりグループがない地域で、今年度実施したことで、自主的な活動が開始されたことから、当初の事業目標を上回る成果であった。	3
(3)	ふれあい・すこやか事業	高齢者支援課	高齢者の孤立を防止し、安心して地域で暮らし続けられるように、健康や福祉の知識を習得した「ふれすこサポーター」を養成し、地域の支え合いの環境づくりの実現を目指す。 ・「ふれすこサポーター」養成講座開催を保健福祉センターだよりにて広報し、日吉地区の老人クラブの協力を得て、区民高齢者を対象として3回シリーズで開催する。 ・講座で学んだ知識や情報を自ら役立て、生活圏域での身近な存在として情報提供や助言を行うことができる人材を養成する。 ・地域の情報を生かした「ふれすこサポーター養成講座テキスト」を作成する。 ・養成講座修了生を対象にフォロー講座を開催するとともに、地区を越えた情報交換と地域の見守りの大切さを確認し、見守り者としての自覚を持ち活動できるように支援する。	937,845	①3回の講座を開催し41名のサポーターを養成した。内容として、講演会「地域での支え合い～地域包括ケア実践に向けて」、健康体操、作成したテキストを使用した保健・福祉の講義を実施した。3回目には「ふれすこサポーター」としてどんなことから始められるかなど、グループワークを行い、サポーターの役割の確認を行った。 ②26年度サポーターを含む193名に対しフォロー講座を開催、105名の参加があった。フォロー講座では「現場は語る！地域の見守りと支援の大切さ」をテーマに、ごみ屋敷や孤独死の現場からみる、これからの地域社会の在り方等の講義と修了年度を越えたグループでの意見交換の場を持ち、地域での見守りの必要性について再確認した。	ふれすこサポーター養成は、幸区の地域包括ケアシステムの構築に向けての準備の1つであると認識してもらい、方向付けることができた。講座の内容も、現状に即し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりにつながり、目的を達成することができた。	3
(4)	さいわい食品衛生啓発事業	衛生課	食中毒予防の基本である、食中毒予防の三原則(つけない、増やさない、やっつける)や食品の正しい保存方法、正しい手洗いの重要性等について一般区民へ啓発を行い、食品衛生に関する知識の向上を図ることで家庭内での食中毒の発生を予防する。 家庭での食中毒予防を目的としたブックレット「我が家の食品衛生」を、各種の区民向け衛生講習会及び窓口における区民からの相談時等に配布する。また、8月の食品衛生月間に、区役所内展示スペースで、区内の小学生が作成した食中毒予防等食品衛生に関するポスター展を開催する。	212,746	今年度、適時修正を加えた食品衛生啓発ブックレット「我が家の食品衛生」を2000部増刷し、各種衛生講習会や衛生課窓口等で配布し説明を行った。また、高齢者関係部署等から食品衛生についての説明資料の請求があった際に、内容を説明した上で配布し、地域活動等における活用を依頼した。 食品衛生月間である8月に、区役所の展示スペースで、幸区食品衛生協会と協同で日吉小学校の5年生が作成した食中毒予防等に関するポスター展(40枚展示)を開催した。8月22日午後は会場に職員を配置し、来場者に食中毒予防について説明を行った。来場者が手に取りやすいよう、カタログスタンドを使用して会場に食中毒予防に関するリーフレットを配布した。	ポスター展は児童が食中毒予防について考える機会となるだけでなく、児童の家庭や来庁者にも興味をもってもらうことができ啓発効果が高いと考えられる。ブックレットについては、カラー刷りで分かりやすい内容の「我が家の食品衛生」を窓口での相談時や各種衛生教育で使用することにより、身近な予防対策をわかりやすく説明することができた。	3

平成26年度幸区地域課題対応事業 事業評価

事業名	所管課	目的及び内容	決算額	実施結果	事業の評価	達成度
3 総合的子ども支援事業費						
(1) 総合的な子ども支援事業	子ども支援室 児童家庭課	子育て家庭の育児不安を解消し、安心して子どもを育てることができる社会を目指して、地域全体で子育てを支援する環境づくりを進める。 区内の子ども支援機関及び関係機関による情報交換、相互協力及び支援策の検討・推進を図るための会議を通して、ネットワークを構築する。 幸区待機児童ゼロ対策推進会議において決定された推進事業を実施する。 幸区における子ども支援関係機関・団体等による「幸区子ども総合支援ネットワーク会議」及び4つの部会「子どもの発達支援部会」、「みんなで子育てフェア部会」、「子どもの安全安心部会」、「子ども情報ネット部会」を開催し、情報交換、相互協力、区内における子ども支援策の推進を行う。 幸区待機児童ゼロ対策推進会議において決定された推進事業として、区内の認可外保育施設を紹介する「川崎認定保育園(幸区)ガイドブック」を作成し、保育の選択を広げてもらうことにより増加する保育ニーズに対応する。	3,275,900	① 区内の子ども支援機関・団体等(38団体)が参加する全体会議を3回開催した。部会1「子どもの発達支援」では部会2回、講演会3回開催した。部会2「みんなで子育てフェアさいわい」では部会5回、「第10回みんなで子育てフェアさいわい」を2月28日に開催した。部会3「子どもの安全安心」では、部会2回、「子ども安全安心・防災フェア」への協力及び「子どもの安全安心」講演会を開催した。部会4「子ども情報ネット」では部会(編集会議)6回開催するとともに、主に小中学生向けの情報誌を年3回(各11,000部)作成し、区内全小中学校を通じて全児童・生徒に配付した。 ②「川崎認定保育園(幸区)ガイドブック」を作成、認定保育所の情報をわかりやすく提供することで保育の選択肢を広げ、待機児童の解消に寄与した。	部会レベルでは、ネットワーク参加団体同士の活発な意見交換や、具体的な事業の連携等を行うことができるなど、実施内容の充実を図ることができたほか、より効率的かつ効果的な会議運営を行うための業務改善を併せて行うことができた。	4
(2) 子ども・子育て支援事業	子ども支援室	子育て中の世帯が孤立することなく、安心して子育てができ、地域全体で子どもや子育て家庭を支援できるよう、子ども・子育て支援事業を実施する。 子育て交流の場の拡大、父親の育児参加の促進、子育て関連情報の提供、幼稚園・保育園・小学校の連携の強化、子育て支援関係機関・団体の交流等各種事業を実施する。	4,055,846	今年度は「うえるかむサロン(転入者交流会)」を公営保育園の父親子育て講座や地域子育て支援センターの父親子育て講座と同時開催とし19組42名が参加した。子どもの成長を連続的に支援できるよう幼・保・小連絡会、小学校教員の保育園実習研修・幼稚園参観、幼稚園・保育園職員の小学校授業参観等を実施した。子育て支援団体交流会を1回開催した。 父親等男性保護者の育児参加を促進するため、各種事業を土曜日に実施し、多くの男性の参加(地域子育て支援センターでの子育て支援講座(男性82人)、地域子育て支援センターふるいちばでの第3土曜日開所(男性254人)、子ども文化センターでの「パパっとサタデー(講座型)」(男性353人))があったほか、父親向け子育て支援冊子「さいわいFather's Book」を増刷し区内子ども関係施設や父親向け子育て講座にて配布した。 区民団体と協働で「おでかけ“ぼかぼか”(出張青空子育て広場)」、「楽しく子育て@ふるいちば」、「パパっとサタデー(自主運営型)」を実施した。 毎月、「お散歩にいこうね!」「絵本読み聞かせタイム」を発行し、「幸区子ども・子育て」情報のホームページを更新する等、子育て関連情報を積極的に発信した。	各事業の参加者は安定しており、参加者の満足度も高く、区民ニーズに応える事業展開を行っているといえる。今後も、区民や関係団体との良好な連携関係を継続し、事業の見直しを行いながら実施していく必要がある。	3
(3) さいわい夢保育事業	子ども支援室	公営保育園の機能・役割を踏まえ、地域における子ども・子育て支援機能の強化及び民営保育園への支援と適切な指導・助言の実施に向けた人材育成を図り、子育てに関する様々な地域課題への対応を推進する。また、公営保育園を「新たな公立保育所」として再構築し、地域の子ども・子育て支援、民営保育園等の支援、公・民保育園の人材育成等の機能の強化を推進する。 「保育園活動活性化・豊かな体験活動」「保育園・地域連帯」「人材育成」「特色ある保育園づくりの園内研究」「民間保育園への支援・連携」について保育園からの提案内容により実施する。	1,258,914	①地域子育て支援事業として、「絵本読み語り」(公営保育園9園、民営保育園15園にて。参加者1675名)、「スマイル マム」(参加者276名)、体験保育「一緒に遊ぼう」「親子でランチ」「プレママ・プレパパ」(参加者計224名)を実施した。 ②民営保育園と連携して、公営保育園のプールを有効活用した「あおぞらスイム」(プール遊び、指導含む)を7～8月に実施、保育交流での園庭使用を年間通して実施した。 ③保育園職員の人材育成として、園内研修「支援の必要な子への関わり方」(2か所8回、参加者243名)、「心と体を育てるリズム遊び」(4回、参加者282名)、「健康な身体づくりと実践」(5回、参加者92名)、「語り部読み語り指導者研修会『絵本と子どもの幸せな出会い』」(参加者105名)、「読み語り」「語り部研修」(参加者170名)を実施し、民営の保育園職員と共に学ぶ機会を多く持った事で公民ともに職員のスキル向上を図ることができた。	・地域支援事業は、各園において地域の特性やニーズを活かしながら実施し、「絵本読み語り」事業等も定着してきた。また、公営保育園の事業を基盤として、民営保育園においても「絵本読み語り」事業の実施の広がりも見られた。 ・民営保育園との連携事業においては、日々の中での連携への広がりも見られ、区内の認可保育園の保育の質の向上を図ることができた。	3
(4) 幸区子ども学習サポート事業	生涯学習支援課	日本語を母語としない子どもたちへの基礎的な学力の支援を地域で行うため、学習支援ボランティアを養成し、地域の教育力を高めながら、区民の主体的な活動を促し、地域における子ども支援策を推進する。 NPO法人教育活動総合サポートセンターとの協働により、学習支援ボランティア養成講座(全8回)や研修フォーラム(川崎市総合教育センター等と連携)を行い、サポートセンターからの派遣指導者と養成講座を修了したボランティアにより年間を通じて週1回の学習支援を実施する。	720,000	①前年度に引き続き5月から7月にかけて「学習支援ボランティア養成講座(全8回)」を実施し、12名の参加があった。うち3名がボランティアとして参加することになった。 ②学習サポート教室については、東小倉小学校での学習(週1回)を実施した。学校や市民へのPRや、前年度から参加している子どもの保護者やボランティアの口コミにより、子どもの数が増加した(登録数13名)し、ボランティアが不足しつつあるほど盛況している。「学習サポート教室」は徐々にではあるが、関係者の中で存在が広まってきている。 ③川崎市総合教育センターや市内の活動団体と連携し、3月6日に川崎市外国につながる子どもの教育フォーラムを実施し、50名の参加があった。	・昨年度から次第に子どもたちの参加が増え始め、本事業の認知度が高まり浸透してきている結果と考えられる。 ・事業開始から3年目となり、NPOスタッフ、ボランティア、生涯学習支援課の3者の連携がスムーズに進められるようになった。 ・学習の場だけでなく、多文化フェスタや生涯学習交流集会へボランティア及び児童・生徒の参加もあり、協働事業についての理解も深まった。	3
(5) 児童虐待防止・子ども相談支援事業	児童家庭課	子どもやその家庭が抱える問題を早期に発見し対応することで重症化を防ぎ、的確な支援を行うことで問題の再発を予防する。また、児童虐待予防や要保護児童の発見に地域で取り組める体制を構築する。 子ども相談窓口を設置し、0歳から18歳に達するまでの子どもに関する各種相談を行う。 要保護児童対策地域協議会実務者会議を開催し、主任児童委員や各関係機関が学習会や事例検討を通じて共通理解を持ち、連携を図れるようにするとともに、児童虐待防止について区民への啓発を進める。 子どもの発達支援保護者交流会を実施する。	639,931	子ども相談窓口、児童虐待の相談・通告の窓口機能の周知を行ったほか、要保護児童対策地域協議会実務者会議を通じて、保育園や学校などの関係機関や主任児童委員との共通理解が進んだことで、相談や通告の件数が増加し、予防や早期の対応に取り組むことができた。 要保護児童対策地域協議会実務者会議は5回開催し、延べ328名が参加した。また、今年度から神奈川県警の担当者にも参加いただき、地域ネットワークをさらに推進できた。	多職種間で連携しながら、拡充した関係機関等のネットワークを活用し、相談や虐待対応を適切に進めることができた。	3

平成26年度幸区地域課題対応事業 事業評価

事業名	所管課	目的及び内容	決算額	実施結果	事業の評価	達成度
4 環境まちづくり事業費						
(1) 花と緑のさいわい事業	地域振興課	区内の緑化推進と区民の緑化意識の高揚を図るとともに、区民同士の交流を促進するため、花と緑の潤いあるまちづくりを推進する。 「区庁舎前庭での花いっぱい事業」「公共花壇花植え事業」「緑化活動団体支援事業」を年2回ずつ実施するほか、区民を対象とした花のまちづくりに関する講習会を開催する。	3,005,335	①「さいわい花クラブ」と連携を図りながら、区庁舎前庭と公共花壇(大師堀)の花植えと手入れを行った。 ②公共花壇では、下平間小学校・塚越中学校と連携し、子どもと一緒に植付けを実施した(下平間小学校約90名、塚越中学校約30名)。植付けに当たっては、川崎信用金庫鹿島田支店と富士通株式会社からも花苗と用土の提供を受けた。 ③「さいわい花クラブ」の新規委員獲得と委員のスキルアップを目的とした「さいわい花クラブ」の運営による「ドライフラワーリースづくり」を開催し、約20名の参加者があった。 ④緑化活動団体支援事業は、5月に40団体、10月に39団体へ花苗等を提供した。 ⑤花のまちづくりに関する講習会は、3月に区民を対象とした「花いっぱい講習会」を開催し、100名の参加者があった。	各種イベントを開催することで区民の緑化意識を高めるとともに、花と緑による潤いがあるまちの創出に貢献することができた。	3
(2) 花と緑のさいわい事業(公共空間の緑化)	道路公園センター整備課	道水路の余剰地を活用し、緑豊かな環境づくりに取り組む。 さいわい歩道橋の南東部に隣接する、既存の花壇敷地に季節に合った花(サルビア、パンジーなど)を、デザイン・景観を考慮して配置し、緑化促進を図ると共に、通行する区民及び近隣地域居住者等に潤いと安らぎを与える。	756,000	・年2回の植替と、年12回の除草灌水等について委託により実施した。 第1回(6月) ブルーサルビア、ペコニア等 合計960株 第2回(11月) ハボタン、パンジー等 合計960株 ・適正な管理により、植替え後の景観を長く維持することができた。	季節の花が咲いている様子で潤いと安らぎを与え、さいわい歩道橋付近の環境の向上につながる景観整備ができた。	3
(3) さいわい・はじめようエコ事業	企画課	区民会議の提言を踏まえ、地球温暖化、リサイクル等、地球環境に配慮した行動をできることからはじめようと呼びかけ、区内でのエコの取組を進める。 ・「さいわい子どもエコフェア」を開催し、ソーラーカーの模型づくり、太陽光発電や燃料電池等のシミュレーター体験など、実際に体験することを通じ、気軽にエコ活動に親しむことで、小学生のエコ意識の醸成を図る。 ・区民と連携した緑のカーテンづくりやリユース食器の利用促進、企業等と連携したプリンターインクカートリッジや廃食用油の回収など、環境に配慮した取組を推進する。	1,415,678	①「さいわい子どもエコフェア」を開催し、小学生とその保護者を中心に約800人の来場があった。 ②区役所、日吉合同庁舎で、ゴーヤーの種子(1袋5個入り)を200袋配布した。 ③区役所、幸市民館、保育園、地域子育て支援センター、こども文化センター等で緑のカーテンを作成し、来庁者に対して環境啓発を行った。 ④区内の5つのイベント(ミレナリータワーズ自治会防災訓練、シャルマン南加瀬夏祭り、古川小学校PTAバザー、日吉まつり、南加瀬中学校区地域教育会議)で、リユース食器を使用した食品提供イベントを実施し、来場者に、リユースの大切さを伝えた。 ⑤プリンターのインク製造メーカーと連携し、区民の使用済みインクカートリッジの回収を区役所・日吉合同庁舎にて行った。 ⑥市民活動団体と連携し、廃食用油の回収を区役所・日吉合同庁舎で行った。	取組を着実に推進することで、環境啓発という目的を一定程度達成することができた。今後も、企業や市民活動団体と協働しながら取組を継続していくとともに、新たな手法を検討し、一層の推進を図る。	3
(4) 区の木・花推進事業	総務課	平成24年度に幸区誕生40周年を記念して制定した、区の木(ハナミズキ)・区の花(ヤマブキ)を区民に広く周知し、区への愛着心を向上させることを目的とし、区の木・区の花を植樹することで、区内の緑化促進に貢献する。 啓発グッズの作成・配布や、学校への植樹等を行い、区の木・区の花を広く区民へ周知する。	1,712,020	①区の木・区の花のロゴマーク等を印刷した啓発用クリアファイルの作成 夢見ヶ崎動物公園の情報を加えデザインを一新し、区民課における転入者への配布のほか健康長寿まつりやみんなで子育てフェスタさいわいなどのイベントでも配布を行った。 ②小中学校への植樹(8校)と看板プレート(6枚)の設置 ③区民祭における啓発活動(オブジェ、パネル設置、クイズコーナー) ④区の木・区の花のオブジェとパネルを作成し、各種イベントで活用 区民祭で披露したオブジェをプラチナファッションショーや花いっぱい講習会などで展示し、更にPRを行った。	今年度予定していた事業は修正を加えながら、全て実施することができた。 シンボルの普及には時間を要することから、継続的に事業を実施する必要がある、その礎となる事業に着手することができた。	3

平成26年度幸区地域課題対応事業 事業評価

	事業名	所管課	目的及び内容	決算額	実施結果	事業の評価	達成度
5 地域資源活用事業費							
(1)	さいわいものづくり体験事業	地域振興課	研究開発施設やものづくり関連施設が集積した幸区の特徴を生かし、これらの地域資源を活用した科学技術体験教室や科学体験イベントを、企業や団体と連携して開催することにより、青少年がものづくりの基礎となる科学技術を体験的に学ぶとともに、地域と研究開発施設等との連携を深める。 ものづくり体験教室「さいわいテクノ塾」(年1回、区内企業と連携)、科学体験イベント「科学とあそぶ幸せな一日」(年1回、区内大学、企業、団体と連携)、科学の楽しさを体験する「さいわいトライサイエンス」(年1回、区内企業と連携)を開催する。	1,107,383	①「科学とあそぶ幸せな一日」日程:9月20日(土)会場:新川崎・創造のもり参加者:1,000名 内容:気軽に科学の楽しさが体感できる実験教室、ものづくり体験講座 ②「さいわいトライサイエンス実験教室」日程:3月14日(土)会場:NANOBIC 内容:科学の楽しさを体験しよう(風船で作ったロケットを飛ばす実験等) ③さいわいテクノ塾「電気自動車をつくろう」日程:3月26日(木)会場:東芝未来科学館 内容:電気自動車を作り、電池の仕組みを学びます※材料費(600円)を参加者実費負担	各事業を通して、子どもを中心に科学技術やものづくりの体験をすることができた。また、科学技術関連施設等の周知を企業等と連携して図るなど、幸区の特徴を生かし、事業の目的を達成することができた。	3
(2)	音楽のまち推進事業	地域振興課	区役所等の公共施設を会場として、気軽に良質な音楽を楽しめる定期コンサートである「夢こんさあと」、若者を中心とした演奏者に演奏発表の機会を提供する「さいわい街かどコンサート」、ミュージアム川崎シンフォニーホールを会場に、市民や企業内の音楽サークル等、川崎市にゆかりのある音楽活動団体等に演奏の機会を提供し、併せて市民がシンフォニーホールで気軽に音楽に親しむ機会の提供を目指す「さいわいハナミズキコンサート」を開催し、区民が身近な場所で音楽に親しめる環境をつくり、「音楽のまち・かわさき」を推進する。 「夢こんさあと」を8回、「さいわい街かどコンサート」を3回、「さいわいハナミズキコンサート」を1回開催する。	3,874,609	①「夢こんさあと」は、区民による実行委員会と連携を図りながら、市民館や日吉分館の他、ミュージアム川崎1階ガレリアなどの会場において年8回開催し、各回約180名の来場者があった。 ②「さいわい街かどコンサート」は、12月に計3日間、ミュージアム川崎1階ガレリアで開催し、計15組の演奏者に出演機会を提供した。観覧者数は3日間で延べ約650人であった。 ③「さいわいハナミズキコンサート」は、ミュージアム川崎シンフォニーホールで2月28日に開催した。演奏者は中学校1組を含む計6組、来場者は約1,200人であった。	各事業を通して、広く区民が音楽に親しめる場を作るとともに、音楽活動団体の演奏機会を提供するなど、「音楽のまち・かわさき」の推進という事業目的に沿った成果を達成することができた。	4
(3)	地域資源を活かしたまちづくり事業	生涯学習支援課	日吉地区に点在する自然・歴史・文化などの豊富な地域資源を大切にするとともに、地域で活動する団体・個人がこれらの地域資源を活用し、次世代に継承していくことにより、地域資源を活かしたまちづくりを推進する。 ①「日吉のタカラモノを次世代につなげる地域ネットワーク推進事業」 団体や地域住民がネットワークをつくり、地域資源を活かしたイベントや情報提供を行うとともに、世代間の交流を図る。 ②「郷土の歴史と文化を活かしたまちづくり事業」 地域の歴史・文化を活かしたまちづくりを推進するため、学習会や子ども向けに夏休み自由研究講座などを実施する。	401,143	①日吉のタカラモノを次世代につなげる地域ネットワーク推進事業 (1)加瀬山で遊ぼう(7/30)121名 (2)ひと月遅れのお正月(2/1)67名 (3)防災講座(3/14) (4)ネットワーク新聞発行(7月15号4000部、1月16号4500部) (5)地域団体との協働イベント(日吉まつり11/16、地域ふれあいの会1/25) (6)日吉のタカラモノかるた販売(22部売上) (7)気まぐれカフェ「日吉で和・話・わっ」(5月から1月全6回 延べ人数102名) (8)日吉の「わっ」ロゴ入りミラー、マグネット、ソーラーLEDキーホルダー各100個 ②郷土の歴史と文化を活かしたまちづくり事業 (1)日吉の歴史をさぐる(毎月1回開催 全12回 延べ人数453名 2月講座終了時点) (2)夏休み自由研究講座(7/14)5名 (3)地域ボランティアガイド	地域で活動する団体がネットワークを構築し、地域特有の自然・文化・歴史を守り、地域間・世代間の交流を促進する本事業は、日吉地区以外からの参加者も増えており実績のある事業と言える。特に地域の子どもたちが、異なった世代と触れ合う機会が少なくなっている現代社会において、多くの参加者が得られていることから、事業の成果は上がっているといえる。	3
(4)	さいわいガイドマップ発行事業	地域振興課	転入者をはじめ区民の方々に向けて、区内の地図や公共施設一覧、幸区の見どころなどを紹介し、幸区を知ってもらうとともに、親しみを持ってもらうことを目的とする。 幸区内の地図や公共施設の一覧、バス路線図の情報などを最新の情報に更新し、改訂・増刷する。	818,640	①地図情報の更新やデザインの見直しを図り、幸区への転入者向けにガイドマップを13,000部発行した。掲載情報については、各所管課に確認してもらうことで効率的かつ正確な情報を掲載した。 ②転入者への案内として、幸区で活躍している地域活動団体を紹介し、地域活動への参加促進を図った。 ③今年度から、デザインを工夫することにより広告枠を設けた。	地図等の区民生活に必要な情報を更新し、13,000部発行した。今年度作製分より広告枠を設け、広告収入を得ることができた。 区民に必要な地図等の生活情報の提供を図ることができ、事業目的に沿った成果を達成することができた。	3
(5)	幸区データブック発行事業	総務課	様々な統計データや情報を収集して、それをグラフ化し、イラスト、コメント等を加え、分かりやすく親しみやすい小冊子を作成・配布するとともに、市インターネットホームページ上に公開し、広く市民の閲覧に供することにより、区民に地域の特性や実情を案内することを目的とする。 区の統計データを記載した小冊子1,000部を作成し、区役所等で配布するとともに、ホームページに掲載する。	153,360	「さいわいデータブック2014」を1,000部作成し、幸区役所、日吉出張所での配架及び希望課へ配布したほか、新たに地区町内会長会議、夢見ヶ崎動物公園へも配布した。また、区内小学校の図書室等で配架してもらったことで、さいわいデータブックについて認知してもらうとともに統計データを基にした幸区の特徴、実情を広く発信した。	平成26年12月の配布開始以来、配布数は順調に伸びており、統計データを基にした情報発信ができています。また、配布範囲の拡大により、今まで統計データに親しみの薄い世代への情報発信にも成功した。	3

平成26年度幸区地域課題対応事業 事業評価

事業名	所管課	目的及び内容	決算額	実施結果	事業の評価	達成度
6 地域コミュニティ活性化推進事業費						
(1) スポーツ推進事業	地域振興課	<p>地域で気軽にスポーツに触れることのできる機会を提供することにより、区民の健康及び体力の保持増進を図るとともに、スポーツを通じて住民同士の交流が生まれ連帯感が高まることで、活力のある明るく住みよいまちづくりに資することを目的とする。</p> <p>区内スポーツ関係団体が主催する各種大会等を支援することにより、区民の健康、体力の保持増進及び心身の健全な発達等を図る。また、地域のスポーツ資源を有効に活用しながら各種大会や講習会等を開催し、スポーツを行う機会をより多く提供することで、スポーツによる明るく活力あるまちづくりを推進する。</p>	735,568	<p>①第4回目となる区民バスケットボール大会(9月8日実施)においては、8チームが参加し区民のスポーツに触れる機会をより多く提供することができた。</p> <p>②フロンターレに委託して行っているフロンターレカップ(グラウンドゴルフ)は団体の部に200人以上の参加があり、中には家族連れの参加もある等、世代間交流を図ることができた。</p> <p>③各種団体が主催する大会に対する支援については、町内会対抗ソフトボール大会を始め、グラウンドゴルフ大会や少年サッカー大会等合計6大会に区長杯優勝トロフィー等の授与を行った。</p> <p>④神奈川大学駅伝監督を招いて実施した講演会では、指導法等についてお話いただき、好評を得た。</p>	<p>区長杯優勝トロフィーの授与、区民バスケットボール大会、「こどもフットサル大会」等の大会を開催し区民にスポーツを行う機会を提供することができた。グラウンドゴルフ大会「フロンターレカップ」を今年度も開催し、高齢者の方たちだけでなく、家族連れも多く参加し、昨年以上の参加があり、好評を博した。また、スポーツ指導者等を対象とする神奈川大学の駅伝監督を招いた「スポーツ講演会」を開催し、スポーツに係わる区民へのスポーツに対する関心を高めることができた。</p>	3
(2) 市民活動等支援事業	地域振興課	<p>幸区で活動する市民活動団体の支援を行い、活動を活性化させることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民活動団体が、打合せや印刷作業、展示等を行う場である市民活動支援コーナー「スペースcha-cha-cha」(幸区役所内)の管理、運営を行う。 新庁舎に設置する幸区市民活動コーナーについて、検討・協議を行うため、区民で構成する幸区市民活動コーナー準備会を設置し、利用ルールや運営方法などを協議する。 市民活動団体の活性化を目的に「交流イベント」を実施する。実施に当たり、区民で構成する市民活動交流イベント実行委員会を設置し、イベントの内容などを協議する。 市民活動団体が会議や講座、情報交換等を行う場である「幸市民協働プラザ」(河原町団地内)の管理・運営を行う。 	2,011,792	<ul style="list-style-type: none"> 市民活動団体が、打合せや印刷作業、展示等を行う場である市民活動支援コーナー「スペースcha-cha-cha」(幸区役所内)の管理、運営を行う。 新庁舎に設置する幸区市民活動コーナーについて、検討・協議を行うため、区民で構成する幸区市民活動コーナー準備会を設置し、利用ルールや運営方法などを協議する。 市民活動団体の活性化を目的に「交流イベント」を実施する。実施に当たり、区民で構成する市民活動交流イベント実行委員会を設置し、イベントの内容などを協議する。 市民活動団体が会議や講座、情報交換等を行う場である「幸市民協働プラザ」(河原町団地内)の管理・運営を行う。 	<p>新庁舎に設置する幸区市民活動コーナーの検討と運営に向けた規定の整備や市民活動団体の交流事業の実施など、事業目的に沿った事業を行うことができた。</p>	3
(3) 地域の魅力発信事業	企画課	<p>区民会議の提言を踏まえ、区の重要な地域資源である夢見ヶ崎動物公園の魅力を高め、これを活用する取組を推進する。</p> <p>平成23年3月に策定した「夢見ヶ崎公園魅力発信基本計画」に基づき、おおむね平成23年度から平成25年度の3年間、アクセス道や園路、案内看板等の整備を行うとともに、市民活動団体や小学校と連携した花壇づくりやヤマブキの植樹、夢見ヶ崎公園周辺の歴史紹介等の取組を推進する。</p>	43,413,795	<ol style="list-style-type: none"> JR官舎跡地側からのアクセス道、猿園周囲の園路及び南加瀬23号線延長歩道の整備 小学校と連携した花壇への花植え活動の実施 来園者ヒアリング調査の実施 区の花「ヤマブキ」の植樹及びPR看板の設置 白山古墳出土 三角縁神獣鏡のレプリカ等製作 	<ul style="list-style-type: none"> 関係局や地域団体等と十分に連携・協力することで、「夢見ヶ崎公園魅力発信基本計画」に基づく取組を着実に実施することができた。 	3
(4) 鹿島田駅周辺総合的環境整備事業	道路公園センター管理課	<p>鹿島田駅周辺の地域の活性化と暮らしやすいまちづくりに向けて、区民協働で道水路美化対策等総合的な環境整備を推進するとともに、達成感や満足度の高い自主的なコミュニティの形成を目指す。区民とともに地域の課題やあるべき姿を相互に認識し、区民協働で問題解決に向けた取組を行う。</p> <p>町内会・自治会、商店会、小学校、中学校で構成された協議会の開催、環境イベント、環境ポスター展及び有償ボランティアの活動により、放置自転車やゴミのポイ捨て等に対応した総合的な環境整備活動を展開する。</p>	837,130	<ol style="list-style-type: none"> 協議会の開催(年4回)、環境イベント(地元小学生を対象にしたニヶ領用水勉強会(児童をはじめとした協議会関係者約120名参加)の実施、小中学生による環境ポスター(応募総数125点)の作成・掲示、有償ボランティア活動の実施(年68回)等区民協働による取組を行った。 鹿島田駅前周辺の放置自転車の台数は、平成22年度は181台あったものが、平成23年度140台、平成24年度111台、平成25年度33台と推移し、今年度は27台と有償ボランティア活動による効果で大幅な減少となった。 その他、鹿島田駅周辺の各団体と協働し、道水路美化に向けた取組を行った。 	<p>地域連携による放置自転車対策、道水路美化活動により、世代を越えた地域コミュニティづくりができた。</p>	3

平成26年度幸区地域課題対応事業 事業評価

事業名	所管課	目的及び内容	決算額	実施結果	事業の評価	達成度
(5) 幸区多文化共生事業	生涯学習支援課	外国人市民及び外国文化に対して、体験等を通して理解を深め、交流する姿勢を育むことにより、世界に広く開かれた地域づくりと相互理解を基盤とした多様化による地域の豊かさの実現を目指す。 幸区多文化共生推進事業実行委員会との協働により、多文化フェスタさいわい及び多文化共生に関する講演会・コンサートをそれぞれ年1回ずつ開催するほか、国際理解基礎講座(全5回)を実施する。そのほか、区内の多文化の資源や状況を情報収集・調査し、広く区民に紹介するため、多文化マップを作成し発行する。	757,000	①多文化共生に関する講演会として、「多文化トーク&コンサート」(9/23開催)を行った。川崎区出身のシンガーソングライター沢知恵氏をお招きし、御自身の歌や人生を重ねたトークに、在日コリアンの歴史や思いにふれる学習機会を提供した。 ②「多文化フェスタさいわい」(11/8開催)では、外国人市民を含む市民約1,600人が来場し、様々な文化を体験しながら、楽しく交流する機会を提供した。 ③国際理解基礎講座として実施した「多文化トレインinさいわい」(全5回)では、延べ179人の市民が参加し、地域の中の外国文化を訪れたり、DST(デジタルストーリーテリング)による外国人市民の声を聞く会など、区内における多文化について考える学習機会を提供した。 ④委員だけでなく、広く区民にも情報提供を呼び掛けて、多文化マップを作成した。	幸区多文化共生推進実行委員会による3年目の事業となり、今年度は4名の外国人市民が委員として新たに加わり、当初予定の4事業を実施することができた。 特に「多文化フェスタさいわい」では、川崎市国際交流協会や市民・子ども局人権・男女共同参画室(外国人市民施策)のほか、区内小学校の協力により、新規の発表や新しい参加者を増やすことができた。	3
(6) 地域コミュニティ推進事業	地域振興課	地域コミュニティの活性化に向けて、町内会・自治会の地域活動の支援等を行う。 ・行政から依頼している回覧及び掲示依頼物を、区役所で集約し、毎月末に委託業者から一括配送することで、町内会・自治会の負担を軽減し、地域活性化を図る。 ・幸区の町内会・自治会の活動内容を親しみやすく紹介し、加入促進を図るための独自チラシの作成・配布を実施する。 ・地域活動を支える人材の育成、地域コミュニティの活性化等を目的とした町内会・自治会活性化講座を実施する。	663,409	①一括配送について、配送件数、部数共に増えてきた。 ②町内会・自治会活性化講座について、2月3日、10日、17日、24日の4回に渡り実施し、参加者は延べ87名であった。 ③幸区独自の加入促進チラシを作成し、区民課の窓口で「転入者セット」に入れて配布した。	・一括配送について、実施から3年が経過し、町内会・自治会にとって標準のものとなりつつある。また、一括配送の仕組みを構築することで庁内の事務効率化が図れた。 ・加入促進パンフレットについて、「目に留まるチラシ」を作成したことで、町内会・自治会加入へのきっかけの一つとすることができた。 ・町内会・自治会活性化講座について、問題意識の高い人が参加し、町内会・自治会を取り巻く状況の分析、先進事例の紹介等、改めて講義を受けたことにより、活動への意欲を高揚させることができた。	3
(7) コミュニティカフェ推進事業	生涯学習支援課	現在、青少年のひきこもり、子育ての孤立化、高齢者の居場所の確保といった課題が多発しており、市民が相互に緩やかに交流を図る「開かれた場」が求められている。そこで「地域の茶の間」として人や情報の交流、地域デビューの後押し、地域コミュニティ活性化のきっかけとなる場を提供し、子どもから高齢者、障がいのある方など様々な方の出会いの場を目指す。 ① 居場所としてのコミュニティカフェ(準備会)の開催(毎月第2金曜) ② コミュニティカフェ講座の開催(6月～10月 全15回) ③ コミュニティカフェ公開講座の開催(9月・11月・1月) ④ ホームページの開設	988,800	①コミュニティカフェ実験講座(全15回)を実施。参加者25名中20名がスタッフとして登録をした。 ②公開講座を3回実施。テーマ:「日本のコミュニティカフェの歴史」、「シニア向けスマートホン入門」、「シニアにとっての地域活動」。公開講座を通して新しい参加者の広がりがあった。 ③コミュニティカフェ準備会を9月から2月までに6回開催、124名の参加を得た。特に男性が回を追うごとに増加している。回によってスペシャルカフェ(折り紙など目的別のテーブル)を実施して好評であった。参加者のフィードバックのために毎回アンケートを依頼、現在88名の回答をいただいている。 ④ホームページを開設し、情報を区民に紹介している。	市民グループとの連携、広報により、シニア世代の男性など幅広い参加につなげることができた。市民館でのカフェだけでなく、人材育成も進み、スタッフの中から出張カフェ開催の希望も出て、さらに地域に広がる可能性も生まれてきている。また、生涯学習交流集会での臨時カフェという形での協力など、地域団体同士の連携づくりにも貢献できた。	3
7 区役所サービス向上事業費						
(1) 区民に身近な区役所づくり推進事業	区民課 企画課	幸区に新たに居住される方へ、「かわさき生活ガイド」などのパンフレット類や、届出書の記載例を事前に配布することによって、必要な手続き等を周知し、窓口での対応時間を短縮する。 大規模マンション入居に伴う大量の転入手続きに対し、待ち時間の短縮や混雑緩和と窓口の快適性を高めるため、転入等の手続きのための資料作成と事前配布を行い、届出書等を事前に記載してもらう。	554,823	大規模マンション入居者への説明資料や転入関係書類について、新庁舎供用開始に合わせた修正を加え作成した。	現在作成している大規模マンション入居者への説明資料や配布書類の見直しを行い、より分かりやすく見やすい資料を作成することができた。	3
(2) 幸区情報発信推進事業	企画課	区民会議の審議や提言を踏まえた地域課題解決への取組、区政情報等を区民に親しみやすく広報するなど、情報発信力の強化と充実を図る。 ①区独自の広報紙である「さいわい広報特別号」を年2回発行し、新聞折込等により区民に配布する。 ②区民会議審議を踏まえた冊子等を作成するなど、区政情報等を広く区民へ発信する取組を行う。 ③無作為抽出による区民2,000人を対象にアンケート調査を実施し、区民の区政への意向を把握するとともに、結果を概要版としてまとめて区民に周知する。	3,112,344	①さいわい広報特別号を11月、3月に発行し、主要紙(朝刊)への一斉折込と区内公共施設での配布を通じて区民への情報発信を行った。11月号(48,000部)は「夢見ヶ崎公園」をテーマとし、園内マップや地域の学生、ボランティアのインタビュー記事などを掲載し、同公園の魅力を広く発信した。3月号(50,000部)は「新庁舎完成」をテーマとし、新庁舎の概要や環境・防災設備など写真やイラストを多様し、紹介した。 ②区民会議の審議を踏まえ、ひとり暮らし高齢者等の異変を見つけた場合の対処方法などをわかりやすくまとめたリーフレット(5,000部)、自転車の交通安全を周知するクリアファイル(12,000枚)を作成した。 ③区民アンケート調査を8月に実施し、942人(47.1%)の回答を得て12月に調査結果の概要版を発行して、紙面・区ホームページにより区民へ周知した。	広報特別号については、秋の動物園まつりや新庁舎完成等の機会を捉えて発行するなど、効果的な情報発信をすることができた。また、区民会議審議を踏まえて作成したリーフレットやクリアファイルの配布、区民アンケート調査結果の周知など、地域の課題や解決に向けた取組等を、広く区民へ発信することができた。	3

平成26年度幸区地域課題対応事業 事業評価

事業名	所管課	目的及び内容	決算額	実施結果	事業の評価	達成度
8 区の新たな課題即応事業						
(1) 区の新たな課題即応事業	企画課	区民にとって身近な区役所が、新たに生じた課題に適切かつ速やかに対応するため、年度途中で新たに生じた地域課題等に対し、区長の権限で適切かつ速やかな対応を行う。区企画調整会議を開催し、事業の必要性や方法などについて審議を行い執行する。	3,893,638	①新庁舎建替工事に伴う来庁者用の臨時駐車場サービス券購入 ②新庁舎建替工事に伴う来庁者用の臨時駐車場借上げ ③古市場公園の水飲み故障に伴う、復旧工事 ④繁忙期の窓口サービス向上のためのキッズルーム関係用品の調達 ⑤八兵衛橋(矢上川流域)の橋台部ホームレス不法占拠に伴う管理柵の補修工事 ⑥区役所会議室の音響機器故障に伴う音響機器の調達 ⑦幸市民館大ホールの給湯器故障に伴う給湯設備の補修工事	財政局や関係部署と連携・調整を図りながら、迅速かつ適切に対応することができた。今年度の執行状況を踏まえ、来年度以降の執行方法等の検討を行っていく必要がある。	3
9 地域課題対応その他事業費						
(1) 幸区提案型協働推進事業	企画課	市民活動団体等から、地域課題の解決に向けた事業提案を公募し、提案団体との協働により事業実施をすることで、地域課題の解決を図る。 区計画や区民会議における審議・提言等を踏まえて募集テーマを設定し、事業を公募する。応募のあった事業について、学識者、区長推薦、行政職員で構成する審査委員会等において選考するとともに、採択された事業について、提案団体と区との協働により事業実施する。	2,869,237	①平成26年度実施事業として提案・採択のあった8事業について、提案団体、事業所管課、企画課で調整・連携し、提案事業の効果的な事業実施を推進した。また、各事業について2月に公開の事業評価会を実施して、実施結果の評価を行った。 ②平成27年度に実施する事業について、11月から12月にかけて募集した結果、9件の応募があり、第1次審査(書類審査)、第2次審査(公開プレゼンテーション)を踏まえ、6件の事業を採択した。	・平成26年度事業の適切な運営を行うとともに、事業評価会で適切に検証を行うなど、区民協働による課題解決に向けた取組を推進した。 ・また、27年度事業に9件の事業提案があり、また、その内容が多岐に渡っていることなどから、区民の参加と協働による地域課題解決に向けた取組意欲の向上へとつなげることができたと考える。	3